

宇都宮大学教育学部附属特別支援学校 「つながる力」を育むポイント

2018.7

本校の研究「共に生きる力を育む教育の実践～『つながる力』に着目した授業作り～」から見いだされた、「つながる力」を育むポイントを以下の3点に集約して提案します。研究成果の詳細につきましては、研究紀要をご参照ください。

- ① 児童生徒にとって魅力的な学習活動を設定する
- ② ペアやグループによる活動の良さを活かす
学習展開を設定する
- ③ 児童生徒同士をつなぐ意識をもって関わる



ポイント1

児童生徒にとって魅力的な学習活動を設定する

魅力的な学習活動を設定することは、興味・関心を高めることに直結し、学習への主体的な参加を促すために重要です。このことは、「つながる力」を育む授業に限定されるものではなく、障害の有無や種別を超えた全ての子どもたちに当てはまるものであることは言うまでもありません。しかし、知的障害を有する児童生徒においては、この点に最大限考慮し、活動を支える意欲を育てるという視点での授業作りが求められます。

【魅力的な学習活動にするために…】

興味関心に基づいた教材の活用

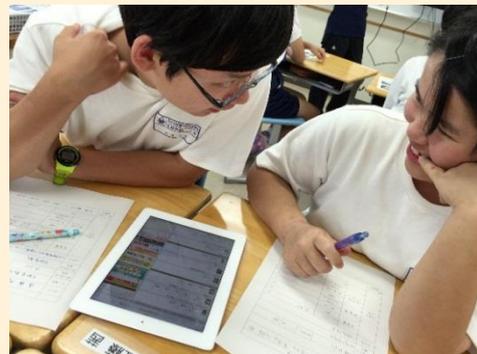
興味関心の把握
身近なキャラクターや興味のある事柄
実際の生活で使用しているもの

面白みのある学習活動

活動にストーリー性をもたせる
友達と競い合う活動

課題を解決する学習活動

友達や教員とやりとりを深めながら



外出の計画を立てよう(高等部)

自由度の高い学習活動

児童生徒自身に選択や決定を委ねる

魅力的な学習活動に主体的に取り組むことで、「できた・分かった」経験が積み重なり、自信や自己肯定感を高めることにつながります。自己が徐々に確立し、自己理解が進んでいくのと同様に、他者に目を向け、気付きや理解が深まっていくと考えられます。

魅力的な学習活動を設定するためには、児童生徒の内面に着目することが不可欠です。行動となって表れる姿だけでなく、その内面の動きも丁寧に捉えていくことは、「つながる力」を育む上で大変重要な視点であると言えます。

ポイント2

ペアやグループによる活動の良さを活かす 学習展開を設定する

「つながる力」を育むために学習グループを工夫し、関わり合いながら活動することの良さを味わえるようにすることは有効です。しかし、ペアやグループによる活動を設定しさえすれば、自然と「つながる力」が育つわけではありません。ポイント1で述べた「魅力的な学習活動」の流れの中に、ペアやグループによる活動が無理なく組み込まれ、自然な文脈の中で相手と関わり合いながら活動できるような学習展開にすることが必要です。「やらなければならない」、「せざるを得ない」状況ではなく、「やりたくなる」状況をいかに作っていくかという、教員側の意図の転換が求められます。

【ペアやグループ活動の良さを活かす工夫】

余裕をもって臨める

シンプルで分かりやすい内容
活動しやすい教室環境

他者との関わりを
後押しする

目的を共有して

ペアやグループで勝敗を競い合う
一つの物を協力して作り上げる



販売会を成功させよう(中学部)

ペアやグループの編成にあたっては、児童生徒一人一人の発達段階を考慮することはもちろんのこと、授業のねらいに応じて柔軟に組み替えることも重要です。これにより、児童生徒一人一人の課題に迫りやすくなり、学習効果の高まりが期待できるだけでなく、ペアやグループによる活動の良さを存分に味わい、相手と関わる経験を着実に積み上げていくことにつながります。

ポイント3

児童生徒同士をつなぐ意識をもって関わる

「つながる力」を育むためには、教員の支援の在り方も重要なポイントです。魅力的な学習活動を設定し、ペアやグループによる活動を展開することができても、最終的には、教員が児童生徒同士をどのように結びつけるか、ペアやグループ活動の良さをどのように意味付けして還元するかという点が大きく影響します。

【つなぐ意識をもって関わる教員の姿】

一緒に活動を楽しむ姿

関わり方のモデルとしての姿

発信から思いを押し量る姿

思いを代弁して伝える姿

周囲への気付きを促す姿



バスごっこ(小学部)

このような教員の意識の変化は、結果として、児童生徒をより多面的・多角的に理解することにつながりました。児童生徒への理解が深まることで、より魅力的な学習活動が設定できたり、個に応じたより良い支援を展開したりすることが可能となるなど、教員の授業力向上とも深く結び付いていることが再確認できました。